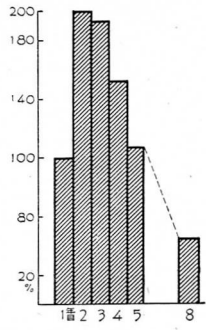


混播牧草とその利用

(一) 牧草の更新は早目に行うことが経済的

牧草の適地といはれる温暖冷涼な北海道に於て混播草地の年次と生産力を調査した成績をみますと、次の図の通りで二、三年目が最も収量多く、八年目ともなれば収量も最高時の二、三割という非常な生産力の低下で、更に雑草が増え、栄養価値も二割以上低下して来て不経済です。



そしてこれが暖地になつて、特別耐暑性の牧草を用いた場合は別として牧草地の生産力低下は一層早まつて来ます。

牧草地の更新方法には種々ありますが、最も効果的なのは所謂完全更新法で、石灰施用、耕起、施肥、播種を行うことですが、改善の方法としては毎年か隔年に追肥と追播を行う所謂追肥追播法です。今春は古い牧草地へ春早く肥料をやつてデスクハローをかけ、イタリアンライグラス、赤クローバー、ラデノクローバーを各〇・五〜一・〇キを混ぜて追播してみて下さい。見違ふように更新されます。

(二) 混播草種の決定は多種類に

荳科といね科の組合せが原則で、それも各々

- 上繁草(草丈の長いもの)と下繁草(下草となるもの)
- 乾燥(日照)に強いものと湿潤(多雨)に強いもの
- 寿命の長い草(永年草)と短年草

というどんな条件下でも安全多収の期待出来る組合せが大切です。

最近の各地に於ける多収の例は殆どが六〜七種類の多種



刈草用の混播

(赤クローバー、ルーサン、オーチャードを主体とした)

(三) 混播牧草の刈取りは早目早目に

類混播です。

混播牧草の刈取適期は優占草種(割合の多い草)の適期に行うのが普通ですが、とにかく遅れ勝ちです。特に多種類混播を行いますと生育の早い草種は硬化している事がありますから早目に刈取りましょう。中には下草や、下葉がムレて黄色くなつてもまだ刈らずに草のびを待つている方もありますが、この上もない無駄です。

精農家、進歩的な酪農家の間では古い尺間法の言い方ですが、八寸の六寸刈り、という言葉があります。二五刈程度に伸びたら根元を五〜六刈残して刈るという意味です。つまり放牧で牛が食う状態の栄養の高い草を刈る事です。

暖地の牧草混播例(一〇ア当)

- 放牧地用
 - ラデノクローバー
 - オーチャードグラス
 - イタリアンライグラス
 - 普通地刈草用(早春の追播きでもよい)
 - ルーサン
 - ラデノクローバー
 - オーチャード(又はケンタッキー三二フェスク)
 - パヒヤグラス
 - ダリスグラス
- 〇・五キ
一〇キ
一〇キ
一〇キ
一〇キ
一〇キ

飼料作りの手引

東北、北海道の

牧草の混播例()内は乾燥地向き

用途	草種	反当播種量(キ)	
		普通	乾燥地向き
普通	赤クローバー(又はルーサン)	一〇	二〇
	ラデノクローバー(又はオーチャード)	二〇	五〇
	チモシ(又はイドグラス)	三〇	四〇
乾燥地向き	メドウフェスク(プロームグラス)	三〇	四〇
	ラデノクローバー(又は白クローバー)	一〇	一〇
	アルサイククローバー(又はバット)	一〇	一〇
普通	ラデノクローバー(又は白クローバー)	一〇	一〇
	ペレニアルライグラス	一〇	一〇
	メドウフェスク(又はオーチャード)	一〇	一〇
不地向き	ラデノクローバー(又は白クローバー)	一〇	一〇
	メドウフェスク(又はイドグラス)	一〇	一〇
	ケンタッキー三二フェスク	一〇	一〇
放牧地用	ラデノクローバー	一〇	一〇
	オーチャードグラス	二〇	二〇
	ケンタッキー三二フェスク	二〇	二〇
採草用	ルーサン	二〇	二〇
	赤クローバー	二〇	二〇
	ラデノクローバー	〇五	〇五
放牧兼用	オーチャードグラス	二〇	二〇
	マウンテンプロームグラス	二〇	二〇
	メドウフェスク	一〇	一〇

(註) 一年目から採草するときはイタリアンライグラスを反当一キ位混播いたします。

○高蛋白飼料生産に役立つプロームグラス

根が深く、窒素分の吸収力が旺盛で、蛋白合成の強いプロームグラスは葉の非常に多いイネ科牧草です。特に乾草用草地にはこれを入れますと、荳科と違つて葉の脱落も少く蛋白の高い乾草を容易にとることが出来ます。

